

あの感動がこの冬も近づいてきた。来る1月2、3日に開催される箱根駅伝。正月の国民的行事も94回目を迎えるが、今回は地元神奈川県ゆかりのランナーたちの活躍が期待される大会もないだろう。

史上6校目の4連覇が懸かる青字大。10月の出雲全日本大学選抜駅伝を制し、初優勝を狙う東海大。11月の全日本大学駅伝で20年ぶりに頂点に立った神奈川大。

県内を拠点に躍進してきた優勝候補

社説

【2017.12.29】

箱根駅伝

三つどもえの戦い期待

補3大学による、三つどもえの熾烈なレースが今から待ち遠しい。

青字大は大学三大駅伝を制して敵なしだった昨季から一転、今季は無冠と苦しいシーズンを送っている。

陸上界を改革してきた「駅伝の革命児」原晋監督は「勝ちに行く」と宣言しており、経験豊富な下田裕太選手（4年）と田村和希選手（同）

を軸に追い詰められた王者がどう巻き返すか、熱い視線を浴びている。

打倒青字大を掲げ、2年生にスピードランナーをそろえた東海大は、

1年生ながら山登りの5区を昨年任された横浜市出身の館沢亨次選手（2年）の走りが楽しみだ。

今年は日本選手権の15000円で優勝したほか、全日本大学駅伝では3区で区間賞を獲得。前回は初の箱根でブレーキとなっただけに捲土重来を期しているよう。

神奈川大は2連覇を飾った1998年以降、長く続いた低迷期をついに乗り越えた。試行錯誤の末にトップレベルへ振り返った大後栄治監督

は今大会、30年近い指導者人生で初めて4年生全員をメンバー入りさせ、箱根路でしか出せない最上級生の力に懸けている。

前回大会の「花の2区」で区間賞を獲得した鈴木健吾選手（4年）は大会屈指のランナーだ。今夏のユニ

バーシアード大会ハーフマラソン3位の実力者で、来年2月の東京マラソン挑戦も表明した。神大の箱根制覇で幕を開け、ベ이스ターズが38年ぶりの日本一に輝き、横浜高が甲子園で春夏連覇した98年再来の号砲を響かせられるか、関心の的だ。

法政二高を初の全国高校駅伝に1昨年導いた順大・橋本龍一選手（2年）ら神奈川出身の注目選手を挙げれば足りない。2日間計11時間にわたってたすきをつなぐ選手らに、在籍大学を問わず治道や茶の間から声援を送りたくなるのが箱根駅伝の魅力だろう。さわやかな元気を新春の風に乗せ、全国に届けてほしい。